

シナリオ1: 失われた記憶と神の言葉

■今回予告■

神聖帝国ヴァンスター領、大陸辺境の町トルナーレ。
この町からほど近い、いまは廃墟となっている神殿遺跡に妖魔が棲みついた。
トルナーレの神殿では、被害が出る前に討滅するべく、町の冒険者たちに依頼を出すことになった。
エリンディル大陸では珍しくもない、普通の冒険の依頼。
だが、それはこの国の未来を揺るがす事件の始まりだった。

アリアンロッドRPG 2E
「失われた記憶と神の言葉」
冒険の舞台がキミを待つ。

■ シナリオデータ：プレイヤー人数：5人 / キャラクターレベル：1 / プレイ時間：4～5時間

シナリオハンドアウト

PCには、以下の設定がつく。
PC①：5年より前の記憶を失っている
PC②：情報部第13班の一員
PC③：帝国騎士見習い
PC④：PC③の友人
PC⑤：トルナーレの冒険者

PC①用ハンドアウト

コネクション：自分自身 **関係：忘却**
キミはトルナーレの町を拠点としている冒険者だ。この町で生活し始めて5年が経つが、それ以前の記憶が戻る気配はない。最近、強い光が脳裏に閃くことがあり、そのとき所持している宝珠が熱を帯びることに気づいた。だが、それ以上のことは特に起きていない。気にはなるが、いつもどおり今日も仕事のため神殿へ向かうことにした。

PC②用ハンドアウト

コネクション：PC① **関係：不審**
キミはヴァンスター帝国の組織、クランの猛犬情報部第13班に所属するエージェントだ。キミは班長のジャニアリーから呼び出された。彼女が言うには、トルナーレという街のPC①という冒険者が、キミの目的とする宝珠を所持していたという。そしてジャニアリーは、キミにPC①に接触してその人物について調査せよと命じたのだ。

PC③用ハンドアウト

コネクション：トルナーレの神官長 **関係：信頼**
キミはヴァンスター帝国の騎士見習いだ。神聖皇帝ゼダンの不興を買い、帝都からトルナーレの町に左遷を命じられて1年ほど経つ。赴任直後から神殿に入りし、なかば冒険者として活動している。いまでは神殿長から特別顧問の役を任せられ、何かと頼りにされている状況である。そんなキミに、神官長は遺跡に棲みついた妖魔の討伐を依頼する。

PC④用ハンドアウト

コネクション：PC③ **関係：友人**
キミはヴァンスター帝国で活動する冒険者だ。親友であったPC③が辺境の町へ赴任して、そろそろ1年が経とうとしている。しばらく連絡もなく、どうしているか気になったキミは、PC③の様子を見に行こうと辺境の町トルナーレへとやってきた。

PC⑤用ハンドアウト

コネクション：トルナーレの人々 **関係：庇護**
キミはトルナーレの町で活動する冒険者だ。町のために、日々いろいろな仕事をこなしている。今日も冒険者仲間であるPC①と神殿に顔を出すと、神官長から妖魔退治の依頼をもちかけられた。